学校収蔵民具の再発見事業

学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

目 次

はじめに	2	•	•	•	•	•	1
目	欠	•	•	•	•	•	2
小学校に	こおける生活資料の保存と活用	•	•	•	•	•	3
資料 I	左京区の小学校が伝える生活資料	•	•	•	•	•	8
資料Ⅱ	安寧小学校のたからもの	•	•	•	•	•	21
資料Ⅲ	学校収蔵民具の再発見事業実行委員会 規約	•	•	•	•	•	27
資料IV	学校収蔵民具の再発見事業実行委員会 役員	•	•	•	•	•	28
資料V	展示スタッフ						28

小学校における生活資料の保存と活用

京都造形芸術大学歴史遺産学科 教授 伊達 仁美

はじめに

京都造形芸術大学では、平成 19年 (2007) 度に、左京区の小学校等で収蔵されている地域の 文化遺産の保存と活用について調査をおこなった。それは、左京区役所が独自に取り組んだ重点 事業「大学のまち・左京の推進」における「左京区 大学と地域の相互交流促進事業」のひとつと して、京都造形芸術大学大学院の演習ゼミ「学校教育の中で地域の文化遺産を保存する一効果的 な展示とは一」(担当教員:大野木啓人・伊達仁美)が提案した「学校教育の中で地域の文化遺産 の保存とその活用法を探る」である」。

京都造形芸術大学がこのような活動に取り組んだ契機は、平成 15 年 3 月(2003)、左京区一乗寺に所在する修学院第二小学校で、「一乗寺こどもミュージアム」が開設されたという新聞報道であった。京都造形芸術大学からほど近いこともあり、学生を連れて見学に伺った。この小学校では、平成 12 年(2000)度から全国で段階的に始められた「総合的な学習の時間」の取組みとして、平成 13 年(2001)度の 5 年生が 2 年間かけて自分たちの地域について調べた。その成果を、3 階にあった郷土資料室の資料とともにアレンジし、新たに「一乗寺こどもミュージアム」として 1 階に設置したものである。3 年生の社会科や 4 年生の国語科の授業での見学、父母の参観や教育後援会の企画の際などに公開するほか、事前に相談があれば一般にも公開されている。この展示の取組みは、学芸員や専門家、研究者など外部の人間による収集ではなく、地域の人たちが自分たちにとって重要だと思うものを集めていることから、より地域に根差した資料群が形成され、公開されている点で評価できる。

平成11年(1999)の合併特例法改正により²、平成17~18年(2005~2006)には平成の大合併のピークを迎えた。合併において市町村の博物館や歴史民俗資料館では、施設の統廃合や収蔵資料の廃棄さえも行われた。地域がより大きな単位に再編されることで、地域の特色は稀薄となってくることが懸念される。私たちは、民具・民俗資料・民俗文化財といった生活資料を「地域の文化遺産」として伝えるために、市町村より小さな「小学校の校区」を単位とした資料の保存と活用が重要なのではないかと仮定した。そのような問題意識のもと、私たちは左京区内の全公立小学校22校および野外活動施設(花背山の家)と養正学習施設の全24施設を対象とし、「昔の暮らし」に関する収蔵資料の保存・活用状況についての実態調査を実施した。その結果、多く

¹ 平成 19 年度は当事業のほか、京都府立大学人間環境学部食事学研究室「楽しく学んで、おいしく食べる健康食」、京都大学医学部保健学科「介護予防・転倒予防に関する区民教室の開催」、KITASHIRAKAWA 地元学マップ作製会議による「KITASHIRAKAWA 地元学マップ作製会議事業」、松ヶ崎発見事業実行委員会(京都工芸繊維大学・松ヶ崎小学校)「左京中部南地域の安心交流拠点化へ『たんけん・たいけん・まちはっけん』」の 4 事業が助成の対象となった。(『歴史・文化・学問のまち左京区 平成 20 年度左京区運営方針~さぁ きょうから はじめよう~』左京区役所区民部総務課編・発行、2008 年 6 月、29p)

 $^{^2}$ 平成 17 年 3 月までに合併申請、翌 18 年 (2006) 3 月までに合併をすることで、地方交付税の優遇措置が合併後 10 年間の講じられることになった。

の小学校でそれらの資料が、実物資料を通して人々の知恵や生活の移り変わり、現代の道具に到るまでの創意工夫を知るきっかけとなるものとして保存・活用されており、特に3年生の社会科の単元「地いきや生活のうつりかわり」でも活用されていることがわかった。また、学校における生活資料のより効果的な展示について、空間デザインが専門の大野木と、生活資料の保存修復が専門の伊達が指導し、大学院生が考察を加えたものを、平成20年(2008)3月8日のワークショップ(於京都造形芸術大学)において報告し、その内容は冊子にまとめた3。

平成 29 年度の学校収蔵民具の再発見事業は、小学校において地域の文化遺産としての生活資料が保存・活用されていることの重要性を再確認しつつ、学校関係者はもちろん、児童や保護者、地域住民に向けてその魅力を発信することを目的とした取組である。そのため、まず取り組んだのは、平成 19 年度の左京区における調査成果をもとに、追跡調査を実施し、10 年後の現在の状況を紹介するパネル展である。会場は区民が集まりやすい左京区総合庁舎区民ロビーとし、長期間の展示が可能な日程を選んだ。

次に取り組んだのは、京都市の中心部に立地する番組小学校4のなかから、特徴的な事例を紹介する取組であり、下京区の旧安寧小学校で取り組まれていた安寧資料室の活動を紹介するパネル展を実施した。会場は、下京区総合庁舎玄関ロビーで、やはり長期間の展示ができる日程を選んで実施した。

平成 19・20 年度の調査の成果について

平成 19 年度は、各小学校に収蔵されている生活資料の現状を把握するために、現地調査と聞き 取りを実施した。その結果、次の5つに分類することができた。

- A 独立した展示室で資料を常設展示し、授業で教材として活用している 学校名―明徳・岩倉北・静原・修学院・修学院第二
- B-1 独立した展示室はないが、他の形で資料を常設展示し、授業で教材として活用している 学校名―岩倉南・鞍馬・錦林・北白川・新洞
- B-2 独立した展示室はなく、準備室や廊下に資料を保管し、授業で教材として活用している 学校名―八瀬・大原・第三錦林・第四錦林・養徳・下鴨・上高野
- C 資料を収蔵しているが、常設展示や授業での使用はしていない 学校名―葵
- D 資料を収蔵しておらず、地域での資料の見学・聞き取り学習や、施設へ行く 学校名―市原野・花背・養正・松ヶ崎

上記の各グループを資料の活用状況で整理すると、次の3つであった。

- (1) 常設展示をする(A、B-1)
- (2) 授業の中で収蔵されている資料を見学し、教員が説明する(A、B-1、B-2)

^{3 『}左京区 大学と地域の相互交流促進事業―学校教育の中で地域の文化遺産の保存とその活用法を探る』京都教育大学大学院、2008 年 3 月

⁴ 番組小学校とは、明治5年(1872)の学制に先立つ明治2年(1869)、地域住民によって町組(番組)ごとに設立された小学校。下京と上京にそれぞれ33の番組小学校が設立された。地域住民が通う小学校としては全国で初めての小学校である。

(3) 収蔵されている資料や、地域や他校からの借用資料を用いて実際に体験する(ほぼ全校)

ところで、小学校に収蔵されている資料は様々であるが、北部地域の大原・鞍馬小学校には、農具に加えて林業の道具があり、左京区の南端にある新洞小学校には農具は全く収蔵されていないなど、地域の特色が反映されている。このことから、地域の歴史文化を守り伝えていく上で、小学校の校区は最小且つ有効な単位であることが分かった。小学校の授業で「昔のくらし」を学ぶにあたり、必ずしも各校に資料が必要というわけではないが、地域で使われていた道具が資料として学校に収蔵されていることは、学校の主たる目的ではないにせよ、学校が地域の文化を保存するという極めて重要な役割を果たしているといえる5。

さらに、平成 20年 (2008) 度には、左 京区の明徳小学校に対象を絞り、「地域の 文化遺産を構成に伝える拠点作り」として 「ととろのへや (現明徳小さな博物館)」 のリニューアルをおこなった。この時、明 徳小学校の教務主任としてリニューアルを 担当してくださったのが、今回の事業の実 行委員会の委員のひとり、小川豊子教諭で あった。



「明徳小さな博物館」のリニューアル作業

平成29年度「左京区の小学校が伝える生活資料」展

平成19年度の調査対象から、花背山の家などを省き、市立小学校に限定して⁶、追跡調査を行った。平成19年度から収蔵・展示の状況に変化があったと回答があった、岩倉南、岩倉北、八瀬、花背、第三錦林、葵の各小学校を訪問調査し、現況について確認した。このうち、岩倉南小学校、花背小学校は新校舎建設に伴う収蔵・展示場所の移動があり、八瀬小学校は校舎の移転・新築によ

⁵ 石山啓・黒川清夏・濱本直子・渡邉多賀子「左京区内の公立小学校に収蔵されている生活資料の調査報告」(前掲『左京区 大学と地域の相互交流促進事業―学校教育の中で地域の文化遺産の保存とその活用法を探る』1~5pに掲載)

⁶ 左京区には、ノートルダム学院小学校(学校法人ノートルダム女学院、昭和 29 年 3 月設置)、京都文教短期大学附属小学校(学校法人京都文教学園、昭和 57 年 4 月設置)、同志社小学校(学校法人同志社、平成 18 年 3 月設置)の 3 校の私立小学校がある。

って収蔵・展示場所が変わったという事情があった⁷。なお、新洞小学校は平成25年(2013)3月、 錦林小学校に統合されており、そのためパネル展示で紹介した小学校は、対象は次の21校である。

北白川小学校 養正小学校 養徳小学校 下鴨小学校

葵小学校 修学院小学校 上高野小学校 修学院第二小学校

松ヶ崎小学校

[展示概要]

名 称 平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業「学校収蔵民具の再発見事業」 左京区の小学校が伝える生活資料

会 期 平成30年3月5日(月)~3月14日(水)10日間

平日8:00~21:00 土日8:00~17:00 初日は13:00 開場、最終日16:00 閉場

場 所 左京区総合庁舎区民ロビー

主 催 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

協 力 京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター 京都市文化市民局文化財保護課 左京区役所地域力推進室

来場数 平日約 1,600 人×8 日=12,800 人 土日約 100 人×2 日=200 人 合計約 13,000 人

平成29年度「安寧小学校のたからもの」展

旧安寧小学校は、平成8年(1996)3月に大内小学校と統合され、新たに梅小路小学校が設けられた。旧安寧小学校の南校舎2階の安寧資料室は、まだ小学校があった昭和62年(1987)頃に設置された。当時、自治連合会長だった西川千大氏が中心となって「書画骨董ではなく、生活の匂いのするものを」を収集するという方針が掲げられ、安寧学区の住民のくらしがわかる生活資料が集まった。幻灯機やカメラなど、ハイカラな資料も並び、一方で農耕具がないというのは、安寧学区が京都駅に近い立地による可能性も考えられる。

⁷ 八瀬小学校は、平成 23 年 (2011) から新校舎の建設が始まり、平成 26 年 (2014) 年 2 月に竣工。

⁹ 小中一貫校。平成 19 年 (2008) 4 月に別所小学校(左京区花春別所町)、八桝小学校(左京区花春八桝町)、堰源小学校(左京区広河原能見町)、花背第一中学校(左京区花春別所町), 花背第二中学校(左京区花春大布施町),堰源中学校(左京区広河原能見町)を統合し、平成 19 年 4 月に小中一貫教育校としてスタートした。当初は別所小学校・花背第一中学校を使用していたが、平成 21 年 (2009) 4 月から花背小学校・花背第二中学校の敷地に新築された校舎に移転した。

これらの活動の延長として、平成7年(2005)4月には『安寧の語り部』が刊行されている10。

[展示概要]

- 名 称 平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業「学校収蔵民具の再発見事業」 明治 150 年関連事業 安寧小学校のたからもの
- 会 期 平成30年3月6日(火)~3月15日(木)8日間 平日8:30~17:00 土日は休み 初日は13:00 開場、最終日16:00 閉場
- 場 所 下京区総合庁舎玄関ロビー
- 主 催 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会
- 協 力 京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター 京都市立梅小路小学校 安寧・梅逕・大内自治連合会 京都市文化市民局文化財保護課 下京区役所地域力推進室
- 来場数 3/6 (火) 751 人、3/7 (水) 755 人、3/8 (木) 602 人、3/9 (金) 669 人、3/12 (月) 828 人、3/13 (火) 673 人、3/14 (水) 683 人、3/15 (木) 625 人、合計 5,586 人

今後の課題と提案

収集した時点では、集められた生活資料に関する情報は共有さえていても、担当した教員の異動や、提供してくださった地域住民の世代交代など、時間を経るごとに情報は希薄になっていく。だからこそ資料だけを残すのではなく、名称や使用方法などの関連情報を記録し、資料と合わせて保存することが重要である。

修学院第二小学校が取り組まれた「一乗寺こどもミュージアム」は、総合的な学習の時間を活用し、子供たちが調査をし、その成果をまとめて発表し、展示に活かすという画期的な取り組みをされている。子供たちはテーマ別に活動をおこない、それぞれ成果をまとめた手づくりのパンフレットや、ビデオも準備されるなど、地域博物館としての基礎的な活動がなされた。

今ある資料をより長く後世に残し伝えるためには、資料に関する情報(名称、その地域での呼称、 使用方法など)の収集とともに、何らかの保存処置も必要になってくる。

限られた小学校のカリキュラムの中で、これらの課題をすべて実行することは容易ではない。と くに保存修復に関しては、文化財の保存修復コースを有する京都造形芸術大学がサポートするなど、 小学校との協業ができればよいかもしれない。

¹⁰ 西川千大著『安寧の語り部』安寧自治連合会「安寧の歴史を探求する会」、2005 年 4 月。このほか安寧学区の地域誌としては、安寧校百年史編纂委員会編『安寧校百年史』(安寧校創立百周年記念事業実行委員会、1969 年)、京都市教育委員会編『閉校記念誌 安寧』(京都市、1999 年)がある。

資料 I 左京区の小学校が伝える生活資料



京都の小学校には、学区で使われてきた生活資料を集め、 もいきがくしゅう きょうざい じゅぎょう かつよう 地域学習の教材として授業で活用されているところがあります。これらの資料は「地域の文化遺産」であり、それを保存している小学校は、大切な地域博物館でもあるのです。

文化庁の文化遺産を活かした文化遺産総合活用推進事業 がっこうしゅうぞうみんぐ さいはっけんじぎょう 「学校収蔵民具の再発見事業」では、京都市内の公立小学校を対象に生活資料の収蔵、展示、活用状況を調査し、紹介する取り組みをおこなっています。

今回のパネル展「左京区の小学校が伝える生活資料」ではますが、 は、左京区の公立小学校 21 校の生活資料の収蔵状況を紹介します。

※本展に使用している写真は、平成 19 年度の左京区役所「左京区大学と地域の相互交流促進事業」の調査をもとに、補足調査の成果を加えたものです。











アクセス・お問い合わせ-



左京区総合庁舎区民ロビー

〒606-8511 京都市左京区松ケ崎堂ノ上町7番地の2

- ☎ 075-702-1000(左京区総合庁舎代表)
- ■京都市営地下鉄
- ・「松ヶ崎」駅から徒歩約8分
- ■京都市営バス
- ・「左京区総合庁舎前」停留所(4,65 号系統)から徒歩約3分
- ・「高木町」停留所 (65, 204, 206, 北8号系統) から徒歩約9分
- ・「松ヶ崎海尻町」停留所(65,北8号系統)から徒歩約6分

展示について **2**075-791-9287(京都造形芸術大学歴史遺産学科 伊達研究室) 平日 9:00~17:00 **2** gakkou.mingu@gmail.com



大原小学校 大原ふるさと資料館



市原野小学校



静原小学校 静原ふるさと資料室



鞍馬小学校 資料室



花背小学校 みんなのリビング



錦林小学校 錦林ギャラリー



第三錦林小学校 資料室



第四錦林小学校 ふるさと館



北白川小学校



養正小学校



養徳小学校 歴史資料室



下鴨小学校 資料室



葵小学校



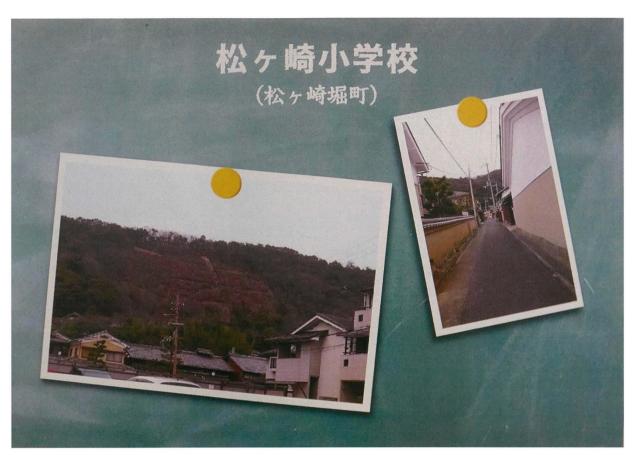
修学院小学校 ふるさとひろば



上高野小学校 上高野郷土資料室



修学院第二小学校 一乗寺こどもミュージアム



松ヶ崎小学校



左京区総合庁舎 区民ロビー 展示風景

資料Ⅱ 安寧小学校のたからもの



京都の小学校には、学区で使われてきた生活資料を集め、地域学習の教材として授業で活用されているところがあります。これらの資料は「地域の文化遺産」で、それを保存している小学校は、大切な地域博物館でもあるのです。

文化庁の文化遺産を活かした文化遺産総合活用推進事業 では、京都市内の公立小学校収蔵民具の再発見事業」では、京都市内の公立小学校 を対象に生活資料の収蔵、展示、活用状況を調査し、紹介する取り組みをおこなっています。

今回のパネル展「安寧小学校のたからもの」では、番組小学校のひとつであった安寧小学校で、学区の人たちの協力によって収集された生活資料を紹介します。安寧小学校は、大内小学校と統合され梅小路小学校となりましたが、これらは「元安寧小学校」で現在も地域の人々によって大切に保存、展示がされています。











アクセス・お問い合わせ



下京区総合庁舎区民ロビー

〒600-8588 京都市下京区西洞院通塩小路上る東塩小路町 608 番地の 8 ☎ 075-371-7103 (下京区総合庁舎地域力推進課)

- 雷申
- ·地下鉄烏丸線·JR 各線·近鉄京都線「京都駅」下車徒步5分
- ■バス
 - ・京都市営バス「下京区総合庁舎前」下車すぐ

展示について ☎ 075-791-9287 (京都造形芸術大学歴史遺産学科 伊達研究室) 平日午前9~午後5時
図 gakkou.mingu@gmail.com

安寧小学校の歴史

安寧小学校は、明治2年 (1869)、下魚棚通浦小路 西入る土橋町に、下京第 21番組小学校として創立 された小学校です。校名



の「安寧」は、平安時代の条坊制においてこのあたりを 「安寧坊」と呼んだことに由来します。

明治7年(1874)に西八百屋町へ、明治16年(1883)に御芳紺屋町へ、そして昭和34年(1959)には堀川通拡幅のため移転をし、現在の元安寧小学校の地に至りました。

その後、平成8年(1996)3月大内小学校と統合され、梅小路小学校となりました。現在は、地域の活動の場として利用されています。

解説パネル 「安寧小学校の歴史」

安寧資料室について

安寧学区の歴史資料や 生活用具が収められた資 料室づくりは、昭和62 年(1987)頃に始められ ました。



当時の自治連合会長の西川千大氏が中心となり、「安いものでも生活の匂いのするもの。骨董品はいらない。」という方針を掲げ、集められました。住民からの寄贈の連絡があれば資料を取りに向かい、展示ケースは「丸物」(当時の京都近鉄百貨店)から、床に敷く絨毯は隣接する京都グランドホテル(現リーガロイヤルホテル京都)から不用品をもらうなど、まさに地域住民による手作りの資料室です。

資料は、町のくらしで使われていたものが多く、なか じょうき には幻燈機やカメラなどハイカラなものがみられます。

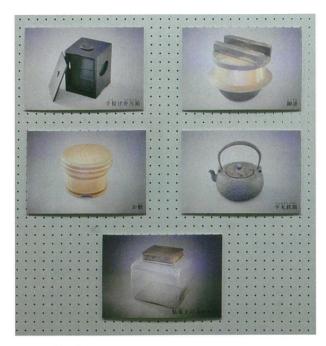
解説パネル 「安寧資料室について」

番組小学校とは

明治政府は、明治5年(1872)の学制公布によって、近代教育制度を推進しました。京都では、それに先立つ明治2年(1869)、前衆たちの寄付等によって、身分や性別に関わらず地域の子供たちが通う小学校が64校開校しています。それは、番組と呼ばれた当時の前組ごとに設置され、番組小学校と呼ばれました。

番組小学校が設置されたのは京都の中心部、現在の上京区・中京区・「ちょうで、「下京区・ 東山区・左京区、以上5区の一部の地域です。その後、少子化などの影響で統 廃合が進み、その跡地は、京都国際マンガミュージアム(上京第25番組小学 校の龍池校)、京都芸術センター(下京第3番組小学校の明倫校)、京都市学校 歴史博物館(下京第11番組小学校の開智校)、漢字ミュージアム(下京第33 番組小学校の弥栄校)などに活用されています。

解説パネル 「番組小学校とは」



手提げ弁当箱

お櫃

銅釜 平丸鉄瓶

駄菓子の入れもの



蝿とり器 炭取り 蔵の鍵

井戸の落とし物つかみ 湯たんぽ バケツ



箱行灯 炬燵

火鉢

ランプ 置き炬燵

箪笥 伸子針 手焙 柱時計

嫁入り箱枕 針刺し(針山) 火熨斗



富くじ箱 文久時代の書類ダンス 大正時代のはかり



小秤 皿はかり



きざみ煙草入れ 手提げ煙草入れ 手押し消火ポンプ 花瓶 五色豆看板



謄写版 防空ずきん 喇叭



オルガン 鈴



カメラ 真空管ラジオ

蓄音機

カメラ

鐘

幻燈機





下京区総合庁舎 玄関ロビー 展示風景

資料Ⅲ 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会 規約

(名称及び目的)

第1条 本会は学校収蔵民具の再発見事業実行委員会(以下「実行委員会」という。)と称し、京都市内の市立小学校が収集し保管、活用してきた地域の文化遺産である民具に焦点を当て、その再発見を目的とした諸活動に取り組み、学校と地域の粋を深め、地域固有の文化を掘り起こした地域活性化につなげることを目的とする。

(事業)

- 第2条 本会は前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
 - (1) 学校収蔵民具の紹介展および講演会の企画、設営、運営
 - (2) 学校収蔵民具の紹介をするリーフレットの発行、配布
 - (3) 学校収蔵民具の活用を通じた地域活性化のプランの研究、提示

(役員)

第3条 本会に次の役員を置く。

会 長 1名

副会長 1名

会 計 1名

2 前項の役員は、互選によって選出する。

(役員の任務)

- 第4条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。
- 3 会計は、経理を担当する。

(役員の任期)

第5条 役員の任期は、一年間とする。ただし再任を妨げない。

(会議の招集)

- 第6条 本会の会議は、会長が招集し会議の議長となる。
- 2 会議の議決は、出席者の過半数の同意をもって決定する。
- 3 会議は、議決した事業方針に基づく事業の執行に関すること及びその他の会務に関する事項を決定する。

(会計年度)

第8条 本会の会計年度は、4月1日より3月31日までとする。

附則

この規約は、平成28年12月1日から施行する。

資料IV 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会 役員

学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

委員長 用田政晴 滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員

委員 小川豊子 元京都市立小学校教員

委員 溝邊 悠介 奈良県立民俗博物館主任学芸員

資料V 展示スタッフ

企画・運営

用 田 政 晴 滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員

小川 豊子 元京都市立小学校教員

○ 伊達 仁美 京都造形芸術大学歴史遺産学科教授

奥 村 晃 代 京都造形芸術大学非常勤講師

関野 遊子 京都造形芸術大学歴史遺産研究センター

○はリーダー

展示協力

京都造形芸術大学大学院

今 村 栞

佐々木 麻衣

京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科

加藤 彬

甲斐晴菜

白井杏華

清 彩華

堀岡 奈央

百瀬 さくら

山本千都

デザイン

大野木 喜 世

学校収蔵民具の再発見事業

編 集 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

発 行 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会

〒522-0072 滋賀県彦根市船町 8-10 (用田政晴方)

発 行 日 平成30年3月26日 第1刷

平成30年5月31日 第2刷

印刷製本 株式会社プリントパック

本書は、文化庁補助金の助成を受けて作成した冊子を、文化庁の許可を得て、学校収蔵民具の再発見事業実行委員会が自主事業として実費頒布のために重版したものです。

.....

平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業 (文化芸術振興費補助金) 京都の文化遺産総合活性化実行委員会 情報発信事業・普及啓発事業「学校収蔵民具の再発見事業」

